

# 2020 年度西淀川インターナショナルコミュニティ活動報告書

2021 年 6 月 26 日

## 1. 団体概要

大阪市西淀川区に暮らす外国人住民、特に外国にルーツをもつ子どもへの育成支援を、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体

代表：中村満寿央、松元ロサリオ、樋上メルシーリータ

設立：2015 年 9 月

URL: <https://nishiyodoic.net>

Facebook: <https://www.facebook.com/Nishiyodogawa.IC>



## 2. 2020 年度活動実績

### (1) 学習支援教室

2020 年 4 月、新型コロナウイルス感染予防のため緊急事態宣言が発出され、公立小中学校は一斉に休校となり子どもたちはどこにも行けず家庭内に取り残された。NIC では、4 月 20 日に家庭での様子を聞き取り、4 月 30 日～5 月 28 日まで毎週 2 回ずつオンラインでの支援を行った後、6 月 1 日の緊急事態宣言解除とともに教室での対面による支援活動を行い、年度末に至った。

#### ① 「きらきら」

外国にルーツを持つ小学生対象の居場所と学習支援の場

大阪市ボランティア活動振興基金、(公財) 公益活動推進協会 JM 基金活用

47 回開催、のべ 233 名の小学生参加

(ペルー、フィリピン、スリランカ、ネパール、パキスタンルーツ)

上述の通り、4 月 30 日～5 月 28 日まではオンラインで実施し、主に休校中の宿題のサポートを行った。オンラインでの支援により、休校中も学習の機会をつくることができたが、使用できるアプリのばらつきや通信環境、対面よりも集中しづらい状況などにより、スムーズな支援が難しい面もあった。

6月1日の緊急事態宣言解除後は、検温・消毒等の感染対策をしたうえで教室での対面による支援活動を再開。毎週月曜日 16:00～17:10 にゆうせいホールで実施した。コーディネーターを中心とする支援スタッフと共に漢字ドリルや計算ドリルなどの学校の宿題をすませた後、教室準備のドリルやタブレット端末を使って個別に予習や復習に取り組んだ。低学年児童は、折り紙やゲームなどを楽しむ場面も見られ、居場所としての機能を果たした。



きらきら 学習のようす

今年度は、西淀川区役所や小学校との連携が深まったことで、紹介等を通して支援が必要な子どもとつながりやすくなり、教室に参加する子どもの人数が増加した。学校の先生方が教室の様子を見に来られることも増え、生徒について情報共有をすることができた。また、「たぶんか相談タイム」に訪れる保護者に学習の様子や教材を提示する等、家庭とも情報共有ができた。

参加した子どもたちは日本滞在年数にばらつきがあり、日本生まれの子どもには教科学習の伴走と日本語の基礎力確認が必要であり、来日間もない子どもには、はじめての日本語学習を考慮しながらの対応が必要であった。支援者はスペイン語、英語等での会話力のあるメンバーで、子どもや保護者とのコミュニケーションをとるには一定の安定感がある。一方で小学校教育や日本語教育の専門家ではないため小学校における各学年の教科学習の内容把握や指導法及び子どもへの日本語指導法等については工夫が必要だと言える。今後に向けて情報収集を進め、より子どものニーズに合う対応方法を探り次年度に活かす目的で年度末には支援者ミーティングを行った。

## ② Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」)大阪市塾代助成事業活用

69回開催のべ354名参加(ペルー、中国、フィリピン、パキスタン、ネパールルーツ)

前身は、「きらきら」参加後中学生となった子どものため、2017年9月からNPO多文化共生センター大阪(2018年3月終結)が試験的に実施した「たぶんかじゅく Huku」である。保護者からの熱い想いと協力により阪神なんば線福駅近くのブラジルレストラン(当時)を借用し、初年度はブラジル・ペルールーツの中1・中2生4名が学習した。2018年4月以降は毎週月曜日 17:30～19:00 出来島駅近くのゆうせいホールをお借りして「たぶんかじゅくアニモ」として開講している。

2020年4月、新型コロナウイルス感染予防のため緊急事態宣言が発出され、公立小中学校は一斉に休校となり子どもたちはどこにも行けず家庭内に取り残された。

NICでは、4月20日に家庭での様子を聞き取り、4月30日～5月28日まで毎週2回ずつオンラインでの支援を行った後、6月1日の緊急事態宣言解除とともに教室での対面による支援活動を行い、年度末に至った。

突然実施せざるを得ない状況となったオンラインでの支援は、移動時間を有効に生かす簡便さもあるが、いくつかの課題もあった。まず、使用可能なデバイスを持たない子が多いこと、使用可能である場合もスマホの場合が多いため画面が小さく見づらい、また、教材を事前に写真送付することが難しいなど、画面を介しての子どもへの呼びかけもはがゆいものがあった。

### オンライン支援についてのアンケート 2020年6月結果

…きらきら、アニモ、他計11名集計より図1,2,3,4参照

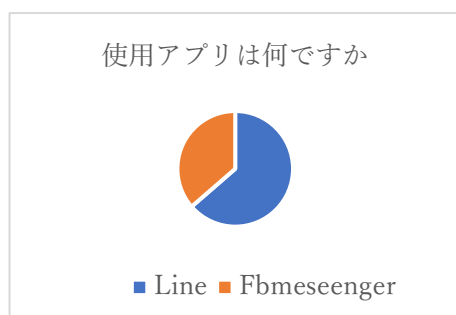


図1

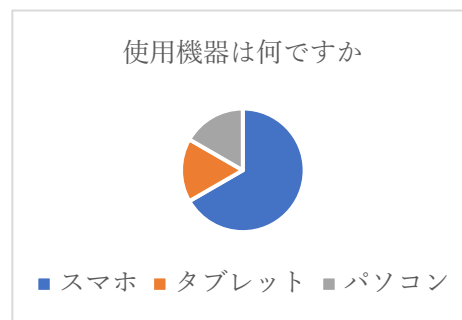


図2

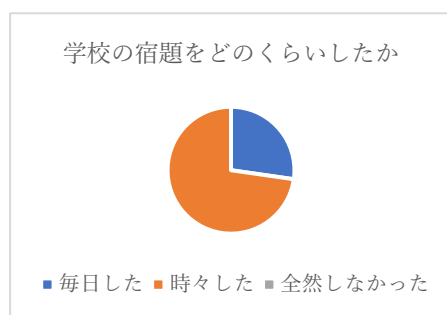


図3

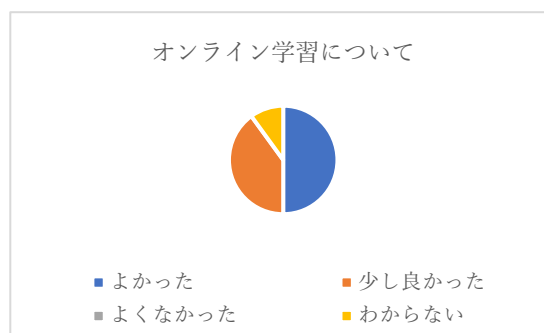


図4

消毒、検温、換気、マスク着用に注意し、ソーシャルディスタンスを保つためそれまでの倍のスペースを借用した。

支援内容はスペイン語・英語話者を含み母語支援を配慮しながら支援内容をスタッフ間で共有した。2020年度は教育相談に関わった子どもを含む7名が希望校である大阪府公立高校特別入試の日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒選抜実施校に合格と高校進学者は急増した。※図5、図6参照



また、母国で9年間の学習を経て来日しダイレクト入試を希望する2名の子どもへの学習支援を11月28日～2月17日に28回85時間、1回の学習時間は2～3時間、週当たり3～4回行った。日本の中学校卒業と同等のため学校には在籍できず、不規則な生活時間になりがちのため、生活リズムを整えるため午前中の学習時間と通常のアニメの時間帯と併用し、日本語、英語、数学の学習と、中学校在籍生であれば学校対応となる入試の諸手続きの伴走を行った。大阪府教育庁での事前相談、資格審査、承認書受理、出願、受験、合格発表、入学手続き等がその例である。いうまでもなくこれらはすべて日本語で行われるため言葉の壁は大きくサポートは必須のものと言える。

たぶんかじゅくは運営資金を大阪市塾代助成による生徒一人につき一か月最大1万円の交付金を活用し（保護者の負担金ゼロ円）で運営しているが、日本語による申請・更新手続きへのサポートを継続した。

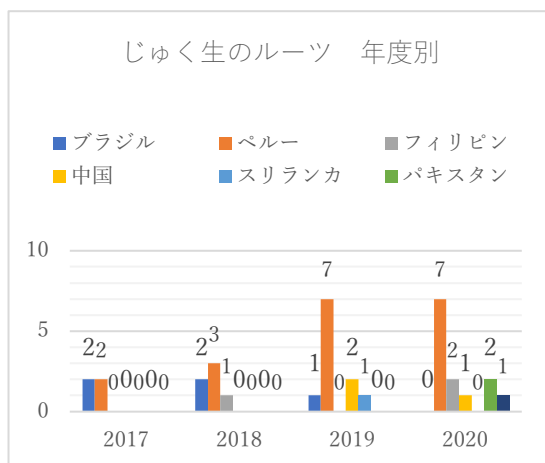


図5



図6

(2)「たぶんか相談会」三菱財団×中央募金会「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」活用

■ 定例相談会 相談件数：97件（図7、図8参照）

実施時期と場所：毎週月曜日 15:00～16:00 ゆうせいホール

実施対象：きらきら、アニモの保護者を中心に

担当者：地域に在住のスペイン語・ポルトガル語話者とNICスタッフ

対応言語：ポルトガル語・スペイン語・日本語

相談内容の内訳：	A コロナ関連(給付金申請等)	8件
	B 教育関連(手当補助、学校選択等)	45件
	C 日本語の勉強をしたい	18件
	D 通知等、日本語書類の読み書き	13件
	E 一般的な情報提供依頼	2件
	F 光熱費支払い(ガス・水道の支払い他)	2件
	G その他	9件

4・5月は緊急事態宣言発出のため休止、6月以降再開した。10月以降は日本語学習をしたいという相談数が多く、地域の識字・日本語教室がコロナ禍で休室ということも配慮して相談時間内での日本語学習を試験的に試みた。(日本語学習記録は別記)

今後も気軽に子ども、就労、健康などについて悩みや情報を母語で話せる場の継続が必要だと考えられる。

図7

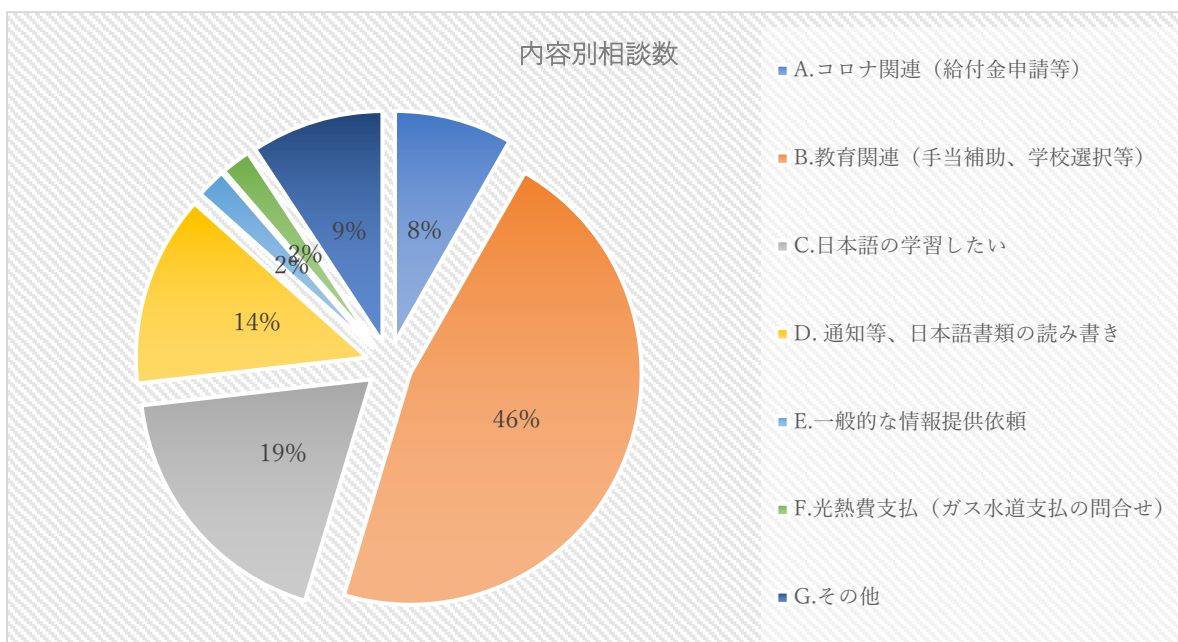
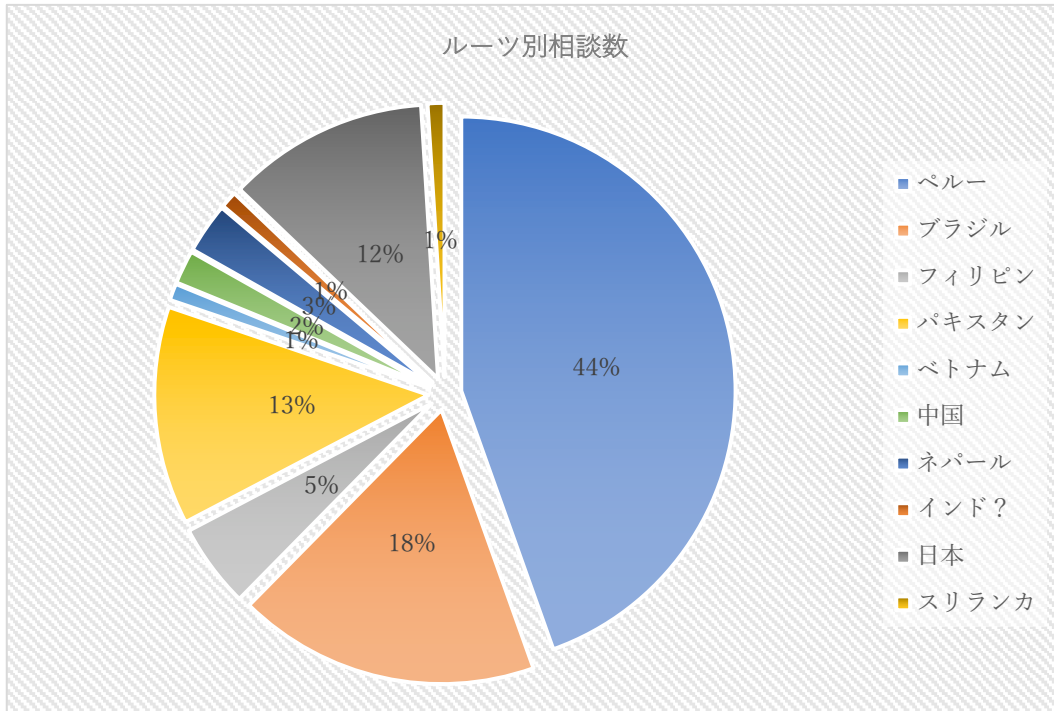


図 8



\* **日本語 3-4 時**

日本語を学習したいという希望者の声に応えることと、地域の識字・日本語教室がコロナ禍で休室となっている事情もあり試験的に 10 月以降 3 カ月ずつに区切って実施した。

実施時期と場所：毎週月曜日 15:00～16:00 ゆうせいホール

実施回数 21 回 延べ 46 名参加



実施時期	主な内容	学習者のルーツ
10 月～12 月	日常生活に必要なひらがな学習	ベルー、ブラジル
1 月～3 月	日常生活に必要な会話学習「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト つながるひろがる にほんごでのくらし	ブラジル

## ■ 特別相談会

たぶんか進学セミナー2020

参加者：20名

外国にルーツを持つ中学生、ダイレクト入試希望の子ども（ペルー、中国、フィリピン、パキスタンルーツ）、保護者、大阪府教育委員会学事課、西淀川区役所こども担当、地域の支援者、通訳者、NIC スタッフ

実施時期と場所：11月28日 ゆうせいホール



コロナ禍で年に2回行われる大阪市多文化進路ガイダンスも1回に縮小され、多言語による進路情報につながる機会が少ない子どもたちに高校入試の制度説明と入学時の費用、奨学金について等の説明を多言語で伝え、相談に乗ることで高校入試への関心を深めることができた。



今後も、日本語・日本文化を学び、未来の夢につながる進路へと学習や高校情報、就学支援金・奨学金等について多言語による情報を継続して伝え支えていきたい。

健康相談会、法律相談会を予定していたがコロナ禍のため開催できなかった。

### (3) 地域の交流行事

新型コロナウイルス感染防止のため開催されなかった。

## 3. その他 見学・取材・講演・連携団体等

### ■ 見学

淀川勤労者厚生協会、西淀川区役所、大阪市民政局、近畿大学学生、大阪市大院生、支援応募への説明会、その他

### ■ 取材

2020/7/26 大阪日日新聞で活動が紹介されました「街と人 なにわの夢 第3部「多様性」(3) 外国籍住民と教育」

### ■ 講演

11/10「西淀川インターナショナルコミュニティーの活動について」講演

於金襴会高校 大阪私立学校人権教育研究会

多民族共生教育研究委員会における多民族共生教育研究委員会オープンセミナー

11/25 「外国につながる子ども支援 外国にルーツをもつ子どもやその親とともに」講演  
於大阪市立男女共同参画センタークレオ大阪子育て館  
地域子育て活動者研修

■ 連携や支援をいただいた団体

西淀川区役所

地域こども支援ネットワーク 諸情報・衛生用品の提供を頂戴しました。

にしよどこども食堂くるる 果物や野菜等の食材提供を頂戴しました。

公益財団法人淀川勤労者厚生協会 西淀川フードバンク他の情報提供頂きました。  
→フィリピン、ブラジル、ペルー、ベトナム、ネパール等の家庭や食材店への広報協力後  
多数の外国人参加者の姿が見られた。

NIC も参加の、子どもの夢応援ネットワーク「ともにいきる」シンポ他参加協力  
→Facebook <https://ja-jp.facebook.com/kodomonoyume.ouen.nw/>

西淀川インターナショナルコミュニティー (NIC)

本部：大阪市西淀川区福町2丁目3-35 サリサリストア内

事務局・お問合せ先：一般財団法人ダイバーシティ研究所へお問い合わせください。

URL：<http://www.diversityjapan.jp/> Email：nishiyc@gmail.com

TEL：06-6152-5175 FAX：06-6195-8812